

会社勤めって、こんなもんなのかね。

ＩＴ会社が、ドーナツ屋を買収するって、目的はいったいなんなんじよ。もう若くない俺に、突然ドーナツ屋へ出向話が持ち上がり、できるできない以前に、この状況に合点がいかない俺。

上からは異動通知を突き付けられ、部下の面倒は見なければならず、慣れない女ばかりの職場になって、目まぐるしい毎日。

この上、またＩＴ会社から社員が出向してくるらしいってよ…。

俺の歯車、狂いつぱなし。

こんな時はあいつと飲みたいな。

あいつと会って、俺の歯車、リセットしたい。

同期入社だけど、いっこ年上のあいつは、きっといつものように俺のイライラをビールの向こうから笑い飛ばしてくれるに違いない。でも、このところ、あいつも忙しいみたいで。

そんなこんな、どうにかドーナツ屋稼業が軌道に乗り始めた時、俺に一本の電話がかかってきて…。

頑張れば何とかなると思っていた俺に降りかかった、そう甘くない現実。

かじったドーナツが、涙でほろ苦く感じられる今、そしてこれから。

それでも前に進もうとしているあなたにお届けする、遙かなる空からのメッセージ。

Doughnut Christ!

作 ····· 木村史子
(mingle with the common man)

演出 ····· 羽田野真男

出演 ····· 高崎賢一郎

堀真幸

山口健司

松尾真樹

臼井由季

松本紫

(劇団神馬)

みのり

飯野弘雅

(声) 多比良岳史

『ドーナツの甘い罠』

今回は、天使と悪魔の話である。

いずれも戯曲のモチーフとして多用されており、ときに「瞳を閉じて」いたり、はたまた「クリスマス」にいたりするようである。

というわけで、雲間から降り注ぐ陽光を背に受けながら「HeOrt BreOd ANTIQOE 銀座本店」に直行。「ザギンでヤーバン」である。目指すは「天使のチョコリ○グ」。直径 約18cm、1,544kcal の巨体を誇る。

さて、行き慣れたザギンのこと、程なく店舗に到着するも、陳列棚に「天使のチョコリ○グ」が見当たらない。今日は売切れ！？看板商品のはずなのに！！

そこでネット検索。すると驚愕の事実が。知財高裁は「森○製菓の商品と誤認混同の恐れがある」として、「天使」の商標登録の無効を妥当としたとのこと。うむむ。

だが、今回の「天使」騒動。宗教的に考えれば、どちらの会社も所謂「七つの大罪」の幾つかを犯しているのではなかろうかと。おお、神よ！

で、「堕天使」となった「チョコリ○グ」であるが、地上で「マジカルチョコリ○グ」として復活を遂げる。そして私の目の前で、店舗を訪れるうら若きお嬢さん方にその巨体を見せつけながら、これまた「七つの大罪」のうちの幾つかを犯すよう誘惑していたのである。畏れを知らぬ所業よ。

今日も眼めぬ夜が続くのである。

2013年5月吉日 演出家

舞台美術 ··· 江平朝子

(欲深企画)

照明 ····· すずきこーた
(演劇デザインギルド)

音響 ··· pl. 羽田野真男
ナガヤマドネルケバブ
op. 香田泉

振付 ····· 佐藤絵美

衣裳 ····· 松本紫
(劇団神馬)

小道具 ····· 大澤知子

制作 ····· 欲深企画
太田尾暁子
浜崎宏治

2013年7月19日(金) 19:30~

20日(土) 15:00~/19:00~

21日(日) 13:00~/17:00~

APOCシアター【小田急線千歳船橋駅 徒歩2分】

前売2500円/当日2800円【日時指定自由席/受付順入場】

【チケット予約/お問い合わせ】劇団Tel: 090-2655-0903

劇団公式サイト: <http://www2u.biglobe.ne.jp/~atafta/> こりっちチケット!↑
上記電話、公式サイト、こりっちチケット!にてチケットをお申し込みの上、ご来場下さい。

※当日の受付開始は開演45分前、開場は開演30分前となります。



お席は全席自由席です。当日は受付順に整理番号を発行し、整理番号順に入場となります。

※演出の都合上、開演後の入場はお断りすることがあります。予めご了承下さい。

なお、小学3年生以下の方のご入場はご遠慮下さい。



1Fがカフェバー、2Fが小劇場。黒い壁に緑の絵が描いてあるおしゃれな建物です。小田急線千歳船橋駅から徒歩2分。千歳船橋の駅から3分以上歩いてもたどり着かなかつたら、劇場までお電話ください。TEL: 03-6321-7690 (行き過ぎてしまうお客様が多いので、ご注意ください。)

東京あたふた 東京都立大学（現首都大学東京）劇団時計において1990年から94年にかけて活動した、羽田野真男（演出）とQui-Ta（脚本／演出）が中心となって95年に結成した社会人劇団。息の長い活動と質の高い芝居作りを目指しながら、人間が生きることの滑稽さ哀しさ、たくましさを描くコメディを主に上演しています。

14回目を迎える今回は、3回目の脚本提供となる木村史子（mingle with the common man）の新作を上演。彼女が一貫して扱うのは「働くこと」、そして「生と死」。独特の透明感ある語り口で、人の世に疲れたあなたの中にそっと寄り添います。

